

研究・調査報告書

報告書番号	担当
281	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Who needs liquor stores when parents will do? The importance of social sources of alcohol among young urban teens.</p> <p>親の他に誰が酒屋を必要とするか? 都会の十代のアルコールの入手先の重要性</p>	
執筆者	
Hearst MO, Fulkerson JA, Maldonado-Molina MM, Perry CL, Komro KA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Prev Med. 2007 Jun;44(6):471-6.	
キーワード	
青少年、都会、人種、アルコール、予防、介入、商業、アルコール入手	
要旨	
<p>目的： 都会の貧困環境にある多民族の青少年集団において、アルコール入手源について検討する。</p> <p>方法： 調査は2002-2005年にイリノイ州シカゴの6-8年生を対象に4時点で行われ、その特性と、過去のアルコール飲用、およびアルコール入手源を調べた。アルコール飲用歴のある全ての青少年と常習飲酒者のアルコール入手傾向について成長曲線分析を用いて分析した。</p> <p>結果： 最も頻度の高いアルコール入手経路は社会的入手源であった。親が最大の入手源であったが、次第に減少する傾向にあった。家からの入手、他の成人や21歳未満の者からの入手、商業経路からの入手が増加傾向にあった。商業経路および友人の親からの入手は女性よりも男性で多かった。</p> <p>結論： Middle school 入学前および在学中の飲酒予防には、社会的経路、特に親からのアルコール入手を減らすことに留意する必要がある。</p>	